

出展名	概要	責任者
[1] まちメディア★モノ語り 新しい公共とメディア・メディアリテラシー(slowtimes.net)	東西東西。ここは、箱の中にあるモノを選んで頂き、そのモノから事を語る趣向でございます。テーマは新しい公共とメディア・メディアリテラシーと固いですが、飛び出すのは面白い実践ばかり。既存のメディアが支える公共ではなく、一人一人が発信してつくる公共とは？。刮目して待て。	責任者：長岡素彦 (slowtimes.net)
[2] 自己認識としてのメディア・リテラシー— 文化的アプローチによる国語科メディア学習の提案— (大阪教育大学メディア・エデュケーション研究会)	小学校、中学校等の国語科におけるメディア学習を提案します。メディア学習のための5つのステップを開発し、その実践を冊子にまとめています。研究会で作成した教材ソフトや、授業案、生徒の作品例をたくさん紹介する予定です。PISA型読解力や課題解決型の「言語活動の充実」につながる国語科メディア学習の詳細をご覧ください。	責任者：増田 ゆか(大阪教育大学附属池田中学校)
[3] 図書「環」を創ろう！(ラボ図書環)	情報コミュニケーションを軸としたまちづくりNPOの内外でアナログな交流ツールとして機能するソー シャルライブラリー「ラボ図書環」。既存の公立図書館や書店と協力する新しい図書館モデルの紹介と、メディアや教育にまつわる本の寄贈を募集します。	責任者：齊藤真菜(NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ)
[4] 未定(NPO法人むさしのみたか市民テレビ局)		責任者：横山哲也(NPO法人むさしのみたか市民テレビ局)
[5] 国語科教育におけるメディア・リテラシー(国語メディア研究会)	この10年、日本の国語科教育で展開してきたメディア・リテラシー教育を振り返り、イングランド、オンタリオ州、西オーストラリア州の英語科とメディア・スタディーズのカリキュラムの比較から、今後の国語科におけるメディア・リテラシー教育のありかたを提案する。	責任者：中村純子(川崎市立西生田中学校 東京学芸大学大学院博士課程)
[6] モバイル・メディアが拓く、教育と社会— 韓国の事例から— (上松恵理子・木暮祐一)	日本のモバイル・メディア社会のあり方を改めて問い直すため、教育の現場にもデジタル化が浸透している韓国の電子図書館や、電子書籍やゲームの現状を検討した。その結果を報告する。	責任者：上松恵理子(新潟大学)
[7] 本売りのおじさん, The Middle Book Man (Not The Little Match Girl...)(水越伸, Shin MIZUKOSHI)	自分が書いた、日ごろ売れない本を売ります。うまくいけば『21世紀メディア論』という新著もお披露目できるかもしれません。I will sell my books, usually unsalable. If possible, I will bring a new book: "Media Studies for the 21st Century".	責任者：水越伸, Shin MIZUKOSHI(東京大学大学院情報学環, iii, the University of Tokyo)
[8] カメラとメディア表現(仮)(林田真心子)	メディア(マス・メディア)表現とテクノロジーの関係について考える出展です。ミニ工作などもしながらみなさんと考えたいと思っています。	責任者：林田真心子(東京大学大学院 院生)
[9] メディア・コンテ(チームconté)	メディア・コンテがこれまでにやってきたデジタル・ストーリーテリング 実践を、実際に使用した小道具類や制作された作品と共にご紹介します。シンポジウムを受けてのご意見、ご批判、ご要望、「一緒にやりたい」などなど、何でもありの1時間半!	責任者：小川明子(愛知淑徳大学 メディアプロデュース学部)
[10] 未定(テレビ朝日 広報局お客さまフロント部)	テレビ朝日と東京大学の共同研究「ろっぼんプロジェクト(2007年~2009年度)は終了したが、その中から生まれたワークショップ『テレビ・パズル』や『対話型大人向け出前講座』は、テレビ朝日の業務の中にもすっかり根を下ろしている。今回は、「ろっぼん」後も継続するテレビ朝日の視聴者・テレビ局スタッフ・研究者が一緒にやって行うメディアリテラシー活動を紹介する。	責任者：鈴木裕美子(テレビ朝日 広報局お客さまフロント部)
[11] もしヘビオンが身近なメディアを逆立ちして見たら(MasshiroGold)	Twitterやミュージアムなど、日頃身近に存在するメディアを明治学院大学のマスコミュニケーション論(劉雪雁担当)と視聴覚教育メディア論(三河内彰子担当)の受講生が捉え直した報告。ヘビオンはプロジェクトのキャラクター。その視点を体験してみませんか?	責任者：◎三河内彰子・劉雪雁(明治学院大学非常勤講師)
[12] 子どもの成長発達とメディア遊び・表現(NPO法人子ども文化コミュニティ)	子どもの成長発達とメディア遊び・表現の関係について考える出展です。子ども文化コミュニティがこれまで実践してきた活動をカードにして紹介します。興味や関心を持ったカードを見ながら交流したり、一緒に遊びたいと思っています。	責任者：高宮由美子(NPO法人子ども文化コミュニティ)
[13] 子どもとミュージアム(NPO法人子ども文化コミュニティ)	子どもとミュージアムについて考える出展です。子ども文化コミュニティがこれまでミュージアムで実践してきた活動を紹介します。	責任者：高宮悟(◎高宮由美子)(NPO法人子ども文化コミュニティ)
[14] フラッシュモブズ Flashmobs(伊藤昌亮 Masaaki ITO)	本を売ります。『フラッシュモブズ— 儀礼と運動の交わる場所』。そして世界中で流行している、一見無意味なメディア遊びの意味について考えてみたいと思います。I sell my book titled "Flashmobs: The Intersection of Rituals and Movements," and discuss the meaning of the meaninglessness of the worldwide fad of media play.	責任者：伊藤昌亮 Masaaki ITO(愛知淑徳大学 Aichi Shukutoku University)
[15] デザインの社会学(加島 卓)	『文字のデザイン、書体のフシギ』(左右社、2008年)、『文化人とは何か?』(東京書籍、2010年)、『フラット・カルチャー』(せりか書房、2010年)などで明らかになってきた、筆者流の「デザインの社会学」を紹介します。書籍をお買い上げの方には、抜き刷りやこれまで読者に恵まれなかった原稿、そしてブログ記事などを集めた小冊子を配布予定!	責任者：加島 卓(東海大学文学部広報メディア学科)
[16] Mobile Story Collector(金ヨニ)	ストーリーテリング技法を用いたクロス・カルチャルなケータイ研究を紹介します。ケータイを物語るワークショップを、東京、ソウル、上海、マニラなど様々な地域で展開しています。文化としてのケータイのあり方に着目し、新しい技術とのつき合い方にとりくむ 試みです。	責任者：金ヨニ(東京大学学際情報学府)
[17] ラジクエ!(ラジオ・コミュニティ・クエスト)(愛知淑徳大学・小川ゼミ×広島経済大学・土屋ゼミ)	「ラジクエ(ラジオ・コミュニティ・クエスト)」は「ドラクエ」の様なクエスト・ゲームの要素を取り入れたラジオ番組制作のワークショップです。目的に向かって町を探索し、人と関わりながら、地域の語りを自分達で生み出していくことを目的としています。	責任者：土屋祐子(広島経済大学、メディアエキスプリモ)
[18] “伝える”“伝わる”“つながる”あおもりラジオくらぶ(特定非営利活動法人あおもりラジオくらぶ)	人々が伝える楽しさ、伝わる喜び、つながるうれしさを実感し、人々も地域も元気になろうと2008年から活動しているあおもりラジオくらぶ。私たちが取り組んでいる人材育成とインターネットラジオによる情報発信等の活動を紹介いたします。	責任者：小笠原秀樹(特定非営利活動法人あおもりラジオくらぶ専務理事)
[19] あいうえお画文2011(メディア・エキスプリモ)	「あいうえお画文2011」は、メディア・エキスプリモ(JST, CREST研究)、文京区アカデミー推進課、東京ケーブルネットワーク株式会社が共同で行う社会連携プロジェクトです。コミュニティチャンネルの放送、ウェブサイト、ワークショップを通じて写真(画) & 言葉(文)遊びを展開します。	責任者：鳥海希世子(東京大学大学院学際情報学府、メディア・エキスプリモ)
[20] 「メディアと教育」を考える授業づくり(福岡教育大学「メディアと教育」)	福岡教育大学では「メディアと教育」と授業を開講しています。この授業では「私たちとメディア」のかかわりについて考えることを目標とし、小・中学生を対象とした授業をつくります。「メディア」という科目はありませんが、メディアを考えることは教育において大切です。	責任者：寺岡聖豪(福岡教育大学 教育学部 学校教育講座)

[21] 高校生によるメディア研究(東京都立小石川中等教育学校)	1年間にわたって、総合的な学習の時間「メディア研究」に所属する7名の高校2年が、メディアについての研究をしてきました。それぞれの個人研究をまとめた論文集を携えて、参加します。以下のような研究テーマで取り組みましたが、各テーマに関心のある方と交流できれば嬉しく思います。・ネット掲示板における口論に関する研究-2ちゃんねるとグーグル議論掲示板の比較を通して-・ネット通販サイトにおける購買意欲に与える影響に関する研究-ラジオの将来性-対象年齢層の異なる番組の比較を通して-・テレビニュース番組における言説に関する研究-コメントの比較を通して-・メディアが作る世論に関する研究-政権交代時における言説との比較を通して-・高校生のSNSに対する意識に関する研究-インタビューの分析を通して-・動画サイトの可能性-ニコニコ動画を中心として、双方向の可能性に焦点を当てて	責任者: 稲井 達也(東京都立小石川中等教育学校)
[22] 青森放送メディアリテラシープロジェクト(青森放送株式会社)	青森放送では、高校生たちにそれぞれの地域で頑張っている人取材してもらい、自分たちで番組を作りました。それと並行して、ワークショップを4回行い、制作スタッフや外部講師の協力の下、制作方法を学び、メディアの特質について考える機会を設けて取り組んできました。	責任者: 星和明(青森放送株式会社報道制作局放送部)
[23] Quick Ethnography (Alex Fleury)		責任者: Alex Fleury (©金ヨ二)(Aalborg University)
[24] 子どものナラティブスキルの発達とDST(佐藤朝美)	幼児期に育むべき重要なスキルとされているナラティブスキル。その発達を促すデジタルストーリーテリング活動のデザインについて、BOXを通して一緒に考える事が出来たらと思います!	責任者: 佐藤朝美(東京大学大学院情報学環)
[25] ある高校の授業「メディア論」(かながわメディアリテラシー研究所 雲の班)	マクルーハンにガツンと殴られ頭から星が出ました。その星の消えないうちにと神奈川の県立高校で「メディア論」を開始したのが7年前。神奈川の教員有志を中心に「かながわメディアリテラシー研究所」を立ち上げ、お互いの授業研究をしながらやってきました。今回は授業の断片を拾い集めてショーケースに入れてみました。とりとめもなく散らばる星が星座に見えたり、見えなかったり。 http://blog.kmnpas.com/	責任者: 中山周治(神奈川県立相模原青陵高校)
[26] 子どものためのおはなしづくりソフトと活動(朝倉枝枝)	言葉と物語の創作・表現活動を通して上質の喜びを味わってほしいと願い、おはなしづくりソフトを開発しました。「ピッケのつるえほん」と、それを支援ツールとして埋め込んだ活動をご紹介します	責任者: 朝倉枝枝(株式会社グッド・グリーフ)
[27] 映像メディアが描く地域の歴史とその再発見: 明治の豪農・伊藤家の絵巻書他(新潟大学人文学部地域映像アーカイブプロジェクト)	新潟大学地域映像アーカイブプロジェクトでは新潟の地域に眠る様々な映像を発見・救済し、そこに映り込んだ映像から地域の歴史を新しく見直す活動を行っています。今回は、新潟の豪農の一つである伊藤家に残る絵巻書データを元に、当時の地域像に新たな光をあてることを試みます	責任者: 中村隆志(新潟大学人文学部)
[28] 現代の問題を歴史人物と考えるカードゲームのデザイン(池尻良平)	カードというメディアを通して、歴史上の人物が行った様々な政策を類推として用い、現代の問題の解決策を多面的に考えるゲームをデザインした。歴史上の政策を現代の事象に応用するリテラシーを身につけさせることを目的にしている。	責任者: 池尻良平(東京大学大学院学際情報学府)
[29] 民放連メディアリテラシー実践プロジェクト(社団法人日本民間放送連盟)	地域の子どもたちに実際に放送される番組を制作してもらい、その制作を放送局員がサポートすることで、双方が共にメディアリテラシーについて学びあうプロジェクトを5年間にわたり実施しました。計13の民放局がこのプロジェクトに参加し、多くの興味深い成果をあげています。	責任者: 本橋春紀(社団法人日本民間放送連盟(番組部))
[30] 「NHK新人ディレクター育成プログラム」を、大学の授業でやってみたら(中部大学 近藤尚)	NHKの新人ディレクターは、入局して最初に「5分番組」を作ります。上司から「じゃあ自分のやりたいネタを持ってきて」と言われる「究極のOJT」。去年夏、NHK報道局から中部大学に転職した私は、大学の授業で同じことをやりました。半年間の過程を小冊子とDVDで報告します。	責任者: 近藤尚(中部大学全学共通教育部)
[31] 『KTS夏休みテレビジャック2010』(KTS 鹿児島テレビ)	2010年夏、KTSにテレビや番組作りに興味いっぱいの中高生が集結し、3分間の番組づくりに挑戦。子どもたちは番組づくりを通して「情報とは何か」、「情報を発信する責任」などについて学びながら、「テレビの見方」を体感していくメディアリテラシープロジェクト。	責任者: 岡村 隆史(KTS鹿児島テレビ総務局経営企画部)
[32] 台湾のメディア・リテラシー教育事例から学ぼう! (後藤心平+Sophia・Wu+劉雪雁)	台湾の小学校で一部試験的に導入されているメディア・リテラシー教育がどのような内容で行われているのか、その詳細を中心に展示します。また、台湾政治大学と東北大学が仙台で実施したメディア・リテラシー教育研修の内容や成果などもご紹介します。	責任者: 後藤心平(東北大学大学院情報科学研究科メディア文化論研究室)
[33] Box of Tea Japanese Traditional Mobile Communication Tool(ティールテラシー研究会)	お茶は、古臭い、堅苦しいと考えられがちですが、実は日本が世界に誇るコミュニケーション・システム。茶室の中だけではなく、街中でも、山野でも、戦場でも、お茶を媒体にして心を通わす工夫がいろいろしつらえられてきました。日本の伝統的モバイルコミュニケーションツールで、しばしの異文化交流を!	責任者: 上原美奈子(古川柳子)(フリーランス(東京大学大学院))
[34] CHOICE - ACADEMIC GROOVE - (CHOICE - ACADEMIC GROOVE - チーム)	『CHOICE - ACADEMIC GROOVE -』は、学問のわくわく感を伝えるフリーペーパー【ミニ・アカデミックグルーブ】の4冊目として、2010年秋に東京大学から刊行されました。出展当日は『CHOICE』の配付と冊子完成までの草稿等の展示、また冊子についてのアンケートの実施を予定しております。今回出展予定の別チーム『SYNAPSE』と『T-time(Academic Park)』とは、【ACADEMIC GROOVE運動体】として一緒に活動しています。	責任者: 清水 修(東京大学広報室)
[35] ビスケットワークショップの展開(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)	ビスケットの1年間の活動を振り返る。メディアセブンや子ども文化コミュニティと一緒に精力的にワークショップを開発し、それらを墨田区緑小学校の放課後教室みどりっこクラブで展開した。	責任者: 原田康徳(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)
[36] 大学院生による次世代クリエイターの育成(青山学院大学 総合文化政策学術研究科 井口研究室 院生ラボ)	院生ラボは、修士の院生が企画したテーマを学部生達が形にしていく活動です。今年度は院生が企画したドラマを制作し、NHKにて放送、そのプロモーションまで学生達で行い、好評を得ました。その活動を紹介し、次年度の取り組みである、院生による、次世代クリエイターの育成についてPRをします。	責任者: 國井真実 粟畑夕子(青山学院大学 総合文化政策学術研究科 文化創造マネジメント専攻修士1年)
[37] ローカルの不思議(ローカルの不思議プロジェクト)	全国各地を結んで実践を行っている、地域間の交流授業のプロジェクトです。地域を題材にした映像を制作し、相互に交換することで、メディア・リテラシーと地域間の相互理解を育むことを目的としています。プロジェクトの新規参加者を募集しています!	責任者: 宮田雅子(札幌大谷大学短期大学部)
[38] メディア機器を用いた教師のメンタリング支援(脇本健弘)	近年小学校では若手教師の割合が増え、その支援が求められています。そこで、タブレットPCとwebカメラを用いてメンタリング支援システムを開発し、若手教師の授業の振り返り支援を行いました。今回はシステムの紹介と実践の様子について紹介いたします。	責任者: 脇本健弘(東京大学大学院学際情報学府)
[39] Zuzieワークショップ(メディア・エクスプリモ)	Zuzie(ズージー)は、自分で描いた絵や撮った写真を分類したり、物語り創作を楽しむためのソフトウェア・ツールです。私たちはこのツールだけでなく、これを利用する表現活動をZuzieワークショップとしてデザインし実践しています。今回の展示では『Zuzie Guidebook』を配布すると共に、博物館や小学校で実践事例を紹介いたします。	責任者: 小早川真衣子(多摩美術大学)

MELL EXPO 2011 ショーケース出展者一覧

[40] 黄金町の地域資源発掘隊(黄金町の地域資源発掘隊)	黄金町のまちづくりへの貢献を目指す大学・大学院生の有志団体です。6大学の学生の間による街での実地調査を主な活動とし、街がもつ様々な資源を再発見し、その魅力をインターネットなどの媒体を利用して、幅広く発信していくことを目指します。インターネットでのサイトの公開は、2011年4月が目標です。	責任者:平野真弓(NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター)
[41] 字幕翻訳 どう伝わる?(映像翻訳ラボ(青山学院大学総合文化政策学部 宮澤淳一研究室))	サンプル映像と字幕製作ソフトを使い、ノートパソコン上で字幕製作を実演し、一般参加者とコミュニケーションを図る。グローバル化時代における映像翻訳の意義や重要性、またメディアリテラシーにおける位置づけを考える。「映像翻訳ラボ」は、UNHCR難民映画祭等、各種映画祭の出品作に字幕を供給している実習授業の活動組織(指導協力:日本映像翻訳アカデミー)。	責任者:小嶋万美子(青山学院大学総合文化政策学部 宮澤淳一研究室)
[42] 大学生がつくる工学部広報誌 Ttime!(東京大学工学部広報室学生アシスタント)	東京大学工学部広報誌『Ttime!』では最先端の研究紹介を企画から執筆まで、全て学生の手によって行っています。主な対象は高校生や大学の1,2年生であり、隔月で1万部の発行です。当日はアカデミックグループ運動の一環として有志が作成した小冊子『Academic park』もご紹介いたします。http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/t-pr/time/index.html	責任者:伊與木健太(東京大学工学系研究科化学システム工学専攻)
[43] 映像学習の向こうに(SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ 映像ミュージアム)		責任者:鈴木 みどり((株)デジタルSKIPステーション 事業企画第1部)
[44] 日本-カンボジアの子どもたちをつなぐメディア実践(カルチャー・クエスト・ジャパン)	Skypeやビデオレターを用いた、江戸川区立鹿骨東小学校とカンボジア・プノンペン市のスラム街にあるVDO小学校との国際交流の報告と、学生がカンボジア海外研修で作成した現地の子どものドキュメンタリーDVDの紹介を行う。	責任者:菅原真悟(法政大学)
[45] 100人1冊「つたえびと」プロジェクト(ローカル・ビズカフェ(rbc))	『100人1冊「つたえびと」プロジェクト』の第3号「つたえびと3」新刊を今年も無事に発行!複数名による、わずかな出資での書籍出版プロジェクトで、原稿執筆から編集作業までをすべて参加者の手により行う、完全自前プロジェクトです!	責任者:山本 拓海(ローカル・ビズカフェ 幹事)
[46] 藤沢動画サイト FUJISAWA DOGA(NPO法人湘南市民メディアネットワーク)	藤沢市では地域の活性化や市のプロモーション促進を目的とし、「地域情報サイト活性化事業」を行っています。その中で、藤沢地域の様々な情報を市民の人たちが映像制作を行い発信するウェブサイト「FUJISAWA DOGA」(愛称:f-doga(エフドガ))を2010年10月に開設しました。	責任者:加藤修大(NPO法人湘南市民メディアネットワーク)
[47] タ張アーカイブス・プロジェクト(東海大学 水島ゼミ)	2007年に財政破綻下の夕張市に入ってから以降、地元研究者とともに、石炭博物館資料室に眠っていた映像群を地域再生に活かす取り組みを行ってきました。2010年度は、古い映像に残された夕張の風景に新たに映像を上書きするワークショップを半年に亘って続けてきました。	責任者:水島久光(東海大学文学部広報メディア学科)
[48] 地域・学校・研究者が共同するメディアリテラシー実践(森本 洋介)	高槻市富田地区において、地域の青少年交流センター、校区の小中学校、および研究者が共同して、センターにおける市民講座、小中学校でのメディアリテラシー教育実践、小中学校教員以外も含めた教育関係者と研究者による研究会などを実施してきた。本出展では、取り組みの様子に関する報告書や、出版物などを紹介する。	責任者:森本 洋介(京都大学大学院教育学研究科)
[49] 表現の編み上がりを目指した一次表現活動支援ツールPhotoLapper(メディア・エクスプリモ 西村G・須永G)	写真をベースとし、その上に様々な表現(音声、テキスト、手書き画)を施すことのできるiPhoneアプリケーション:PhotoLapperを開発した。これにより、人々が日常生活において表現する気持ちを後押しし、市民表現の社会的な広がり(編み上がり)を加速させることができる。本出展では、このアプリケーションをインストールしたiPhoneを10台ほど展示し、参加者の方々に自由に使ってもらって表現活動を楽しんでもらう予定である。	責任者:中村嘉志(産業技術総合研究所 情報技術研究部門)
[50] エキスポ・ショーケース(エキスポ・ショーケース・デザインチーム)	今回のメル・エキスポでお目見えた「エキスポ・ショーケース」。前回までのエキスポとは出展形態が大きく変わって戸惑われた方も多いと思いますが、ショーケースがどんなふうデザインされたのかを、デザインチームの宮田と坂田がショーケースを使って紹介します。	責任者:宮田雅子(札幌大谷大学短期大学部)
[51] 市民参加型技術開発プログラムの実践(東京大学情報環・KDDI研究所共同研究プロジェクト)	サービスや技術が複雑さを増すに連れ、それが生み出される場と使われる場の間にある断層が徐々に広がっている。この断層を埋めるための活動として行ってきた、ケータイを対象とした市民参加型技術開発プログラムについて、その活動内容を報告する。	責任者:新井田統(KDDI研究所)
[52] 学術と社会を繋ぐ SYNAPSE Project(SYNAPSE)		責任者:塚田有那(フリーランス)
[53] 鶴ヶ島市民によるストーリーテリング(株式会社 地域創造推進機構+有限会社 コンサルティングアイ)	埼玉県鶴ヶ島市で行政と協働でデジタルストーリーテリングワークショップを行っています。	責任者:河村和紀(株式会社地域創造推進機構+有限会社コンサルティングアイ ディレクター)